

健康 ぷらざ

梅毒

—若い女性で増えています—

国立国際医療研究センター病院 エイズ治療・研究開発センター 水島 大輔

企画：
日本医師会

No. 565

原因と最近の動向

梅毒は、梅毒トレポネーマという細菌が性的な接触を通してうつる病気です。近年、約半世紀ぶりの高水準へと急増しており、若い女性での増加が顕著です。2022年の性別・年齢別の報告件数を図に示します。

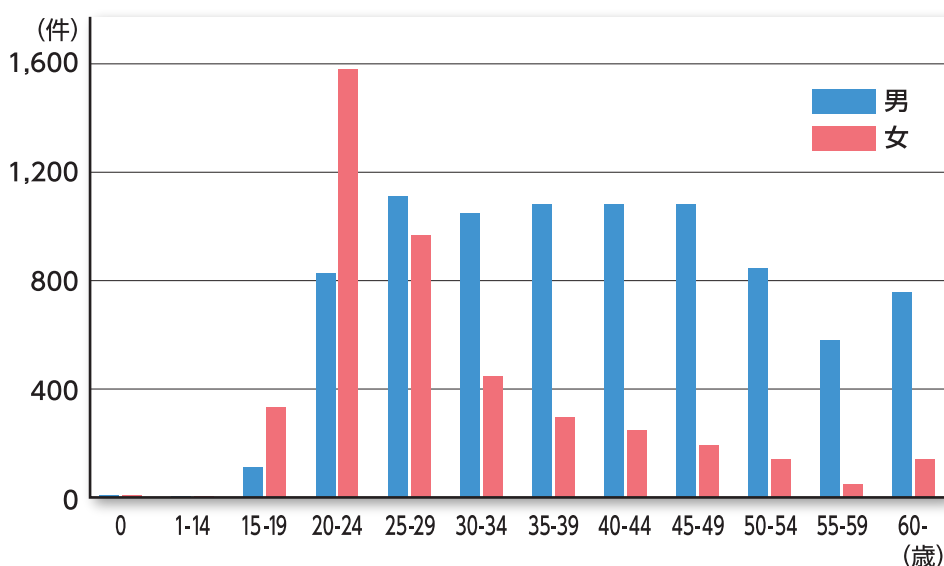


図 2022年の梅毒の報告件数 (性別・年齢別、合計12,964件)

(国立感染症研究所の資料より作図)

症状の特徴

まず、梅毒にかかっている人と性的な接触をした数日から数週間後に、接触した唇・口内や陰部・肛門周囲などにしこりやただれ(潰瘍)ができます。痛みがないことが多く、感染部位によっては気づかないこともあります。この際、感染部位に近いリンパ節が腫れることがあります。これがⅠ期梅毒で、数週間で自然に消えてしまいます。さらに、その数週から数か月後に手のひらや全身に発疹が出ることも多く、バラ疹と呼ばれます。発熱などの多彩な症状が出ることもあります。これがⅡ期梅毒で、やはり数週間後に自然に消えてしまいますが、治ったわけではありません。

診断と治療

梅毒を数年放置すると、脳神経や心臓に合併症を起こすことがあります。また、妊婦が梅毒にかかると、胎盤を経由して胎児に感染し、流産・死産・先天梅毒の原因となることがあります。梅毒は若い女性で流行していることから注意が必要です。梅毒は血液検査(抗体検査)で診断できます。早期(Ⅰ・Ⅱ期)の梅毒なら、ペニシリンを筋肉注射(1回)することで、内服薬では約2週間の服用で完治しますので、心配な出来事があった方は早めに検査を受けてください。地域によっては保健所で、匿名・無料で検査できることもあります。疑わしい症状が出た場合は、身近な医療機関に相談してください。



日本医師会ホームページでは、健康ぷらざのバックナンバーがご覧いただけます。



日医

バーコード読み取り機能付き
携帯電話もしくはスマートフォン
でご利用になれます。